

## 第六回宮古市立地適正化計画検討協議会 議事概要

- 日時：令和6年1月18日（水）14：30～16：30
- 場所：宮古市市民交流センター 2階多目的ホール
- 次第
- 1. 開会
- 2. あいさつ
- 3. 報告
  - (1) これまでの取り組みと今後の予定について
  - (2) 検討協議会・有識者会の主な意見と対応について
- 4. 議事
  - (1) 基本方針の見直しについて
  - (2) 誘導区域の見直しについて
  - (3) 誘導施設の見直しについて
  - (4) 誘導施策の見直しについて
  - (5) その他
- 5. その他
- 6. 閉会

### 〔参加者〕

協議会委員：南会長、宇佐美委員、坂下委員、盛岩委員、小笠原委員、松野委員、三浦委員、川崎委員、木村（謹）委員、大泉委員、高峯委員、木村（剛）委員、久保田委員、三田地委員、去石委員、小野寺（隆）委員、山崎（正）委員、盛合（弘）委員

事務局【都市計画課】：藤島部長、盛合（弘）課長、花坂係長、橋本主査、高屋敷主任、田村主事

【（株）エイト日本技術開発】：島、奥谷

### ○質疑応答

- (1) 基本方針の見直しについて、(2) 誘導区域の見直しについて

委員：エネルギー推進課では、市の再生可能エネルギーのゾーニングを実施しており、現在パブリックコメント中である。脱炭素・エネルギーの伸ばすべき点について、十分なポテンシャルを有しているという説明の中で、このゾーニングの結果を踏まえて記載した方がいいのではないか。

事務局：少し簡単に書きすぎてしまっている部分もあると思う。またご相談させていただき、記載について相談させてもらえればと思う。

委員：資料4の14ページの地図に関して、誘導区域は土砂災害などの特定区域を外すということだが、宮古小学校のところははみ出しているように見える。

事務局：修正させていただく。宮古小学校の東側の一部が土砂災害のレッドゾーンを取り込んだようになっているため、誘導区域の設定を見直す。

委員：14 ページの右下、都市機能誘導区域となっているのは、居住誘導区域か。また、この後誘導施設について説明があると思うが、誘導施設の説明と、都市機能誘導区域の説明はリンクしていた方がいいのではないかと。先走った話になるが、磯鶏の文化会館に関してはいろいろと議論があったと思うが、将来的に建替えや更新の時期が必ず来る。建て替えの費用面で都市機能誘導区域に入っていない場合は、宮古市にとって不利になることがあるかもしれないということを想定しておいた方がいいと思う。

事務局：居住誘導区域の誤りである。磯鶏地区においても都市機能誘導区域を設定した方がいいのではないかと議論も出たが、将来的な人口減少を見据えてまちをコンパクトにして住みやすくしていくという中で、様々な場所に都市機能誘導区域を設定することは宮古市の規模では難しいのではないかと考え、宮古駅周辺の一か所にしている。市民文化会館やその他の施設についても老朽化などの問題があり、都市機能誘導区域に入っていない場合、費用的に難しくなる部分もあるが、都市機能誘導区域を広く設定し過ぎても将来的に見ると宮古市にとっては良くないのではないかと。施設の建替えなどについては、他の事業などを調べながら対応を考えていきたい。

(3) 誘導施設の見直しについて、(4) 誘導施策の見直しについて

委員：無電柱化について、ようやく人が少し歩きやすくなったという状況で、これからもっと歩きやすくなっていくと思う。しかし、それまでが非常に大変であり、これから花の木通りや中央通りの方も計画されているとのことだが、無電柱化されて綺麗になった頃に頑張っているお店はどれくらいあるんだろうという不安がある。その辺をどうか商店や商店街と十分に意見交換しながら進めていっていただければと思う。無電柱化を反対する意見ではない。もう一点 39 ページで「非常時でもエネルギーを利用できる環境を構築します。」とあるが、太陽光発電などを利用してやる方向なのか思いながら聞いていた。どういう形で実現するか分からないが、独立してそこで使うような形にならないと難しいんじゃないかと思う。災害時は送電網を使ってやるという形ではなくて、プロパンガスを利用して各拠点で炊き出しや発電ができるような設備もあるため、脱炭素ではなく、防災という観点からそのような設備・システムも検討していただければと思う。

事務局：無電柱化については、しばらく夜間の工事が続いてご迷惑をお掛けしているところだが、今後も進めていく際には、意見交換をしながら取り組んでいきたいと思う。無電柱化の事業の目的として、無電柱化をすることというよりは、賑わいを取り戻していくということで取り組んでいる。エネルギーについては、様々なエネルギー源を確保することも重要であると思うため、エネルギーや防災の部署とも連携して検討したい。施策については、他の部署とも連携しながら今後も検討していきたい。

委員：誘導区域に関わらない地域の方は、興味を持たずに全く見てもらえないのではないかと感じた。拠点以外の方はどのように見ればいいのかと思った。他の地域の人にとってどのようなメリットがあるのか。

事務局：現在説明しているところだけを見ると、拠点部分にフォーカスしているため、他の地域が取り残されてる印象が出てしまうと思う。拠点性を高めていくというのは、市全体として今後も持続可能であるために、まずはその生活していくためのサービスを駅周辺などの中

心部に残していく。中心部と他地域の拠点との連携を図ることでその恩恵をどの地域でも受けれるようにしていく。更に、それぞれの地域において、拠点周辺に住む方々や拠点の区域以外の方々も含めて、その地域の拠点を通しながら中心部にも来やすくしていくということで、市全体として中心部の賑わいなどの恩恵を受けながら持続可能なまちを目指していこうということである。そのため、拠点だけではなくて、他の範囲も重要な部分であり、そのような恩恵があるものと思う。確かにイメージが湧かないというのはその通りだと思うため、中心部でこのような事業をすることがどのように他の拠点の区域や、区域以外の方々にもメリットがあるのかが分かるような資料も作りながら、説明する必要があると感じた。

委員：資料 6 の 37 ページで地域脱炭促進事業を記載しているが、再エネ、畜エネに加えて省エネが漏れているため追加していただければと思う。また 40 ページにも、関連事業として地域脱炭促進事業が入ると思う。

事務局：把握しきれていない事業があるかと思うため他の部署も含めてご意見頂ければと思う。

委員：資料 5 の 35 ページの誘導施設の分類で前から見やすくなったようで、分かりにくくなった部分もあると思う。今回は維持が丸で誘導が二重丸だったと思うが、本文を読めば維持または誘導など記載してあり伝わるが、この表のみだと分かりにくい部分もあるように感じた。

事務局：見やすい表現を検討するなかでこのような形になったが、再度検討したいと思う。

委員：再開発準備事業について、キャトル跡地は、津波と洪水の浸水区域になっていると思うが、防災についても触れなくていいのかと感じたため、その点ご検討いただければと思った。

事務局：はい、ありがとうございます。キャトル跡地が津波や洪水で浸水をする部分であり、線路の南側には市役所があるが、確かに北側にも避難する場所や防災の拠点なども考えていかなければいけないというのはその通りだと思う。事業の検討の中で、その点もしっかりと記載をしながら検討していきたいと思う。

委員長：市民の中でもこの立地適正化計画に関わるころと、そう見えにくいところもあるという話が大事なことだと思った。今後も市民皆さんでできるだけ進めていくという姿勢を改めて示していただければと思う。とても大事な視点いただいたかなというふうに思う。

事務局：はい、ありがとうございます。資料 6 の誘導施策の見直しについて、例えば 38 ページで方針に左手の一番下で地域産業の振興が全カットとなっているが、立地適正化計画の目的の一つに、地域の活性化があり、持続よりまちづくりというのがあるため、例えば方針 3 の公共交通では、関連事業の欄に「このほか公共交通に関する事業については関連計画などで実施していきます。」という表現もある。細かく書く必要はないかと思うが、宮古市の場合は産業立市ビジョンに基づき取り組んでおりますので、その辺も少し表現していく必要があると思う。今日の資料で不足している部分があるため、皆さまからのご意見、ご指導をいただきながら進めていきたい。併せて 40 ページの方針 5 の若者子育てについても、福祉や教育サイドで他都市にない部分まで補助制度、支援事業を実施しているため、全て書く必要はないかと思うが、こういうこともやっているということも書いてく必要があると思う。またどこに書くかという問題あるが、情報発信についても様々取り組んでおりますので、その辺も盛り込んでいきたいと思う。

(6) その他

事務局：事務局からは特になし。

以上

